



2017 年度泉大津市立池上曾根弥生学習館 文化財セミナー

骨からみる人間と動物のかかわり

第1回 9月9日(土)



「弥生時代と動物のかかわり～東海地方の事例から～」

講師 山崎 健 氏 (奈良文化財研究所 主任研究員)

第2回 10月15日(日)

「弥生時代からの動物とのかかわり～家畜の変遷～」

講師 宮路 淳子 氏 (奈良女子大学 教授)

各回とも 13時30分～15時(受付は13時～)

事前申込不要・無料

◆お問い合わせ◆

泉大津市立池上曾根弥生学習館

住所：泉大津市千原町 2-12-45

開館：10時～17時(入館は16時30分まで月曜休館)

電話：0725-20-1841

アクセス：JR 阪和線「信太山」駅から西へ徒歩15分

または、南海本線「松ノ浜」駅から東へ徒歩約20分



主催：池上曾根弥生学習館

動物は、食料としてはもちろん、骨や皮は生活用品の原材料として利用され、またパートナーとして、人間の生活に欠かすことのできないものです。遺跡から出土した動物遺体を通して、古代人はどのように動物と関わり、どのように利用してきたのかを各地の事例を通して探ります。

講演概要

9月9日（土）

弥生時代と動物のかかわり～東海地方の事例から～

山崎 健 氏（奈良文化財研究所 主任研究員）



弥生時代は、本格的な水田稲作が開始された時代と言われています。そのため弥生時代の生業研究は、稲作や畠作など植物利用の実態解明が中心となってきました。ただし、縄文時代から弥生時代の変化が「狩猟採集社会」から「農耕社会」へという生業活動の大きな転換を伴うものであったならば、植物採集や農耕といった植物の利用だけでなく、狩猟や漁撈といった動物の利用にも影響が及んでいたと考えられます。

そこで講演では、農耕社会である弥生時代において、あまり議論されてこなかった狩猟や漁撈を考えてみたいと思います。

10月15日（日）

弥生時代からの動物とのかかわり～家畜の変遷～

宮路 淳子 氏（奈良女子大学 教授）



人類と動物が長く関わりをもって生活してきたことは、遺跡から出土する動物の骨や角や歯、あるいは人類が残した絵画やさまざまな造形物にみえる動物意匠から知ることができます。人類は、自分たちとは異なる生き物をどのように認識し、それらの動物たちとどのように関わりを持ってきたのでしょうか。先史時代の社会の発展と動物はいかに関わってきたのでしょうか。

講演では、池上曾根遺跡が形成された弥生時代を中心に、先史時代の人類と動物との関わり、特に動物飼育について、遺跡から出土した動物関連資料をもとに詳しくご紹介します。